

ゼミ生の声

20jp1059 福原武留

初めまして、熊谷先生の担当する政治学基礎演習 1 に所属している 20jp1059 福原武留です。この熊谷ゼミの軽い説明とやりがいを短いながら紹介していきます。まず、このゼミは一週間おきに 1 人の発表者が指示された文献を読みそれを要約し、数ページのレジюмеを作成してゼミ生に発表します。そして、同時に発表者はその要約範囲においての疑問点をまとめて発表します。この疑問点の発表は他のゼミ生も行います。発表した質問を熊谷先生が取り上げて発表者が考察し意見を述べていくというものです。流れ的には非常にシンプルでこれを隔週おきに分担し交代していきます。読む文献は少々難解なものもありますが、ゼミ内である程度重要な部分を先生がまとめてくださりますので心配はありません。

次にやりがいです。毎週本を読むので初めの頃はきつく感じますが、繰り返すうちに内容がわかってくることでの喜びや、難しい文章を読むことで本を読解する力も身につけることができます。

また、落ち着いたゼミですので誰でも気軽に参加できます。

最後に政治の前提知識は必要ないので政治に興味ないけどゼミには入りたいという方におすすめです。

20jp1117 福原愛華

熊谷ゼミではあらゆる文献を取り扱うことで一つのテーマに対する理解を深めることができます。テーマは事前に伝えられる訳ではなく、一回一回の授業を通して授業の全体像を捉えることで分かるようになります。

今期は 5 冊の文献を取り扱いました。まず、『ロミオとジュリエット』で物語を通して中世ヨーロッパの結婚観や家族観を学ぶことで、当時の「恋愛結婚」の難しさを捉えます。次に、『ヨーロッパの家族史』や『デュルメン』で中世の家族観をより詳細に掴みます。そして、『人間不平等起源論』で作者であるジャン=ジャック・ルソーの思想に触れ、『エミール』で再び「恋愛結婚」をルソーの思想と交えて考えました。

したがって、今期の熊谷ゼミのテーマは「恋愛結婚」だったように思えます。一見関係のないような文献でも、最終的には繋がっていて、「恋愛結婚」の理解を多角的に捉えることができました。

このように熊谷ゼミでは授業初期で取り扱った内容が後期で再び戻ってくる、伏線回収のような展開に毎週わくわくしながら楽しめます。読書や考察が好きな方は是非熊谷ゼミに！

20jp1088 森田彩乃

私は政治を広くとらえ文献を深く読み解けるところに魅力を感じ、熊谷ゼミに入ることを決めました。

実際に秋学期の半年を通じ、ジャン=ジャック・ルソーの教育論、『エミール（上中下）』を読み進めています。はじめは翻訳された文章を読むことが苦手で理解するのも苦労しましたが、毎週継続して読んでいったことで現在はあまり苦労しなくなりました。一年間通して文献を読む継続力はほかの課題で参考書を読むとき、普段の読書にも役立つ力だと思います。読了し、たくさん書き込みをした本をみると達成感を感じられるのも楽しみの一つです。

今年度のゼミ生は5人と少数なので、一人ひとりの疑問に思った部分について取り上げてじっくりと考えられるのがよいところだと思います。その疑問をゼミ生で考察し、熊谷先生が詳細に説明をしてくださいます。自分が見落としていた部分、今までの価値観になかった発見をすることが次の文献の理解を広げてくれます。

さいごに熊谷ゼミは政治にしばられることなく、文献をよみこんで理解を深めたい方にはおすすめのゼミです。ゼミ選びに悩んでいる方、政治関連の本だけではなく幅広い文献を読みたい方、ぜひ熊谷ゼミに入りませんか？

20jp1019 平野優唯

今年度の熊谷ゼミは、女子4人男子1人の計5人の少人数で活動しています。夏季休暇には、みんなでディズニーに行ったり、イベントごとに乗じて遊んだりとても仲の良いゼミです。そんな熊谷ゼミは、毎週文献を読み、それについて議論をします。取り扱う文献は、前期では『ロミオとジュリエット』、『ヨーロッパの家族史』、『デュルメン』、『人間不平等起源論』などを読み、後期では『エミール』（全3巻）を読んでいます。ここでお気づきかもしれませんが、直接政治に関わるようなものは扱っていません。今年度は、家族を介して政治を見ています。また、この文献一例をみて、古典を読んでいくことに不安を感じる方もいるかもしれません。大丈夫です。はじめは軽いものから扱い、慣れてから古典に移ります。その頃には難しい文章を読むことにも抵抗感がなくなります。分からないことがあっても、熊谷先生が重要なポイントを解説してくれます。自分の価値観と大きく異なる思想を知り、ドン引きすることもあり、面白いと思ったり、非常に楽しいです。皆さんのことを熊谷ゼミで待っているよ！！！！(๑)

20jp1115 宮崎杏

こんにちは。今、このゼミ生の声をご覧いただいているということは、ちょっとでも熊谷ゼミにご興味があるということですね！ということで、熊谷ゼミの魅力をお伝えしようと思

います。ゼミの詳細は他のゼミ生が説明していると思うので、私は熊谷ゼミの魅力を。

1. 「古典を読む」ことの独特な魅力に気づくことができる

古典というところちょっとお堅いイメージ、とっつきにくいイメージがあるかと思いますが、一度足を踏み入れてみるとなんとも言えない面白さに気づくことができます。私自身、その面白さは、当時の社会を知ることができるのと、昔の人が描いた作品に時代を超えて共感できる場所にあると考えています。

2. ちょこっと自慢できる知識が増える

突然ですが、バックスという冬限定の洋酒のチョコレートをご存知でしょうか。このバックスという名前はローマ神話の酒の神バックスに由来しているんです。これは授業に直接関係があるわけではないのですが、課題文献を読んでいる中で、バックスが酒の神であることを知り、はっと気づかされました。これも面白さのひとつでしょう。

3. 少人数だから仲が良い

2022年度のゼミ生は5名で、お昼ご飯を一緒に食べたり、他の授業を一緒に受けたり、遊びに行ったり、クリスマスパーティーをしたり…他のゼミと比べて少人数なので仲良くなりやすいです！めちゃくちゃ楽しめます！！

本当はもっともっと魅力的な点があるのですが、今回はここまで。ぜひ熊谷ゼミに入って大学生活を豊かなものにしてみてはどうでしょうか！